
キヤノン株式会社

2020年12月期 決算説明会

2021年1月28日

代表取締役副社長 CFO 田中 稔三

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。

■2020年実績	P 2~4
■2021年見通し	P 5~8
■ビジネスユニット別詳細 (2020年実績/2021年見通し)	P 9~16
■財務状況	P 17~18
■サステナビリティへの取り組み	P 19
■参考資料	P 20~33

【外部環境】

- コロナウイルスにより事業環境は年初想定から一変し、世界経済は記録的なマイナス成長

【当社業績】

- 先を見据えた追加の構造改革を実施
- 2Qを底に徐々に持ち直し、4Qは増益
- 足元のコロナウイルス再拡大の影響は限定的

2

2020年年初の想定では、世界経済は、新興国を牽引役にして総じて回復に向かい、当社も現行事業の収益性改善と新規事業の成長加速により、増収増益を達成する計画を立て、2月までは順調に推移しました。

しかし、新型コロナウイルスという想定外の災厄により事業環境は一変し、第2四半期には世界各国における都市封鎖などで経済活動が著しく停滞した結果、当社も初の四半期ベースでの赤字決算を余儀なくされました。そのような中で、この時代に生き残るための追加の構造改革を計画通り進めました。

その後は、各国の財政支出や金融緩和による景気の下支えもあり、第3四半期以降は事業環境も持ち直しました。足元では感染の再拡大もみられましたが、当社関連市場への影響は限定的であり、第4四半期の業績は緩やかな回復基調を辿り、増益となりました。

2020年 全社PL(年間)

- 売上、利益ともに前回見通しを上回る
- 期を追う毎に収益性は改善し、営業利益を1,100億円台に乗せる

(億円)	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回
売上高	31,602	35,933	-12.1%	31,400	+202
売上総利益 (売上総利益率)	13,759 43.5%	16,100 44.8%	-14.5%	13,488 43.0%	+271
経費 (経費率)	12,654 40.0%	14,356 39.9%		12,848 41.0%	+194
営業利益 (営業利益率)	1,105 3.5%	1,744 4.9%	-36.6%	640 2.0%	+465
税引前利益	1,303	1,955	-33.4%	860	+443
純利益 (純利益率)	833 2.6%	1,250 3.5%	-33.3%	520 1.7%	+313
USD	106.68	109.03		106.86	
EURO	122.07	122.03		122.16	

※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

3

前回公表に対しては、イメージングを中心に、全社の業績、特に利益面が改善しました。

売上でプラス202億円、
営業利益でプラス465億円、
純利益でプラス313億円
それぞれ上回りましたが、

対前年では
売上が12.1%減の3兆1,602億円、
営業利益は36.6%減の1,105億円、
純利益は33.3%減の833億円
と、減収減益となりました。

コロナ禍で業績も大きく影響を受けましたが、そのような中でも、年間の営業利益を1,100億円台に乗せることができました。営業利益率も、赤字の第2四半期を底にして、第3四半期は2.5%、第4四半期は8.1%と着実に改善し、今年のスタートに弾みをつけることができました。

2020年 ビジネスユニット別PL(年間)

- イメージングは対前年増益となり、2桁の利益率を達成
- 産業機器その他は計画見直しにより売上が前回見通しに届かず

(億円)		2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回
オフィス	売上高	14,402	17,521	-17.8%	14,310	+92
	営業利益 (%)	814 (5.6%)	1,650 (9.4%)	-50.7%	729 (5.1%)	+85
イメージング システム	売上高	7,122	8,074	-11.8%	6,891	+231
	営業利益 (%)	718 (10.1%)	482 (6.0%)	+49.1%	510 (7.4%)	+208
メディカル システム	売上高	4,361	4,385	-0.6%	4,320	+41
	営業利益 (%)	252 (5.8%)	267 (6.1%)	-5.6%	223 (5.2%)	+29
産業機器 その他	売上高	6,548	6,884	-4.9%	6,733	-185
	営業利益 (%)	132 (2.0%)	194 (2.8%)	-31.8%	66 (1.0%)	+66
全社消去	売上高	-831	-931	-	-854	+23
	営業利益	-811	-849	-	-888	+77
連結合計	売上高	31,602	35,933	-12.1%	31,400	+202
	営業利益 (%)	1,105 (3.5%)	1,744 (4.9%)	-36.6%	640 (2.0%)	+465

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィスに含めており、2019年実績も遡及して組替えています。
 ※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

イメージングは、新製品効果や平均売価の上昇などにより収益性が改善し、第3四半期に続き、第4四半期、年間でも増益となり、2桁の利益率を達成しました。

産業機器その他では、露光装置の設置はほぼ計画通り進みましたが、有機EL蒸着装置の設置計画の見直しなどにより、売上は前回公表に届きませんでした。

2021年見通しのポイント

【為替前提】

平均為替レート	20年年間	21年年間	21年年間の為替影響額 (1円の変動による影響)	
			売上	営業利益
USD/円	106.68円	105.00円	109億円	40億円
EUR/円	122.07円	120.00円	56億円	25億円

【外部環境】

- ワクチン普及などにより、新型コロナウイルスは収束に向かい世界経済は緩やかな回復基調を辿る
- 感染再拡大の影響が懸念されるも、経済活動が極端に収縮する可能性は低い

【2021年見通し】

- 現行事業の収益力強化と新規事業の業績拡大で、2019年並みの収益性を取り戻す

前提となる為替レートにつきましては、ドルは105円、ユーロは120円として
います。

各国の財政支出や金融緩和の継続に加えて、ワクチンの普及などにより上
期中には新型コロナウイルスが収束に向かうことで、世界経済は緩やかな回
復傾向を維持するとみています。今後感染が再び広がることにより、当社関
連市場への影響が拡大する可能性もありますが、経済活動が昨年のような
極端な収縮状態に陥ることはないと思込んでいます。

このような前提の下で、当社事業においては、カメラとインクジェットの需要は
昨年並みで推移し、露光装置や産業機器、ネットワークカメラは旺盛な需
要が続く見込みです。残るオフィスやメディカルについても下期にかけて回復
が進むと想定しています。

今年は新たな5カ年計画のスタートの年にあたりますが、現行事業の収益力
強化と新規事業の業績拡大により、まずは2019年並みの収益性を取り戻
し、それを足掛かりに高収益企業への回帰を目指していきます。

2021年 全社PL(年間)

- 4年ぶりの増収増益
- 事業活動の効率化により経費を抑制

(億円)	2021年 見通し	2020年 実績	対前年	(参考) 2019年 実績
売上高	34,000	31,602	+7.6%	35,933
売上総利益 (売上総利益率)	15,060 44.3%	13,759 43.5%	+9.5%	16,100 44.8%
経費 (経費率)	13,475 39.6%	12,654 40.0%		14,356 39.9%
営業利益 (営業利益率)	1,585 4.7%	1,105 3.5%	+43.4%	1,744 4.9%
税引前利益	1,765	1,303	+35.5%	1,955
純利益 (純利益率)	1,150 3.4%	833 2.6%	+38.0%	1,250 3.5%
USD	105.00	106.68		109.03
EURO	120.00	122.07		122.03

※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

6

売上は、対前年7.6%の増収で、3兆4,000億円、
営業利益は、43.4%の増益で、1,585億円
純利益は、38.0%の増益で、1,150億円

と、4年ぶりの増収増益を計画しています。

2020年の反動もあって売上を大きく伸ばすとともに、コロナ禍で推し進めた
事業活動の効率化を定着させることで経費率を抑え、2019年並みの利
益率を目指します。

2021年 ビジネスユニット別PL(年間)

- 全ビジネスユニットで対前年増収増益
- オフィス、メディカル、産業機器その他は収益性が改善
イメージングは2年連続で2桁の利益率を見込む

(億円)		2021年 見通し	2020年 実績	対前年	(参考) 2019年 実績
オフィス	売上高	15,520	14,402	+7.8%	17,521
	営業利益 (%)	1,189 (7.7%)	814 (5.6%)	+46.1%	1,650 (9.4%)
イメージング システム	売上高	7,325	7,122	+2.8%	8,074
	営業利益 (%)	746 (10.2%)	718 (10.1%)	+3.9%	482 (6.0%)
メディカル システム	売上高	4,600	4,361	+5.5%	4,385
	営業利益 (%)	296 (6.4%)	252 (5.8%)	+17.3%	267 (6.1%)
産業機器 その他	売上高	7,460	6,548	+13.9%	6,884
	営業利益 (%)	249 (3.3%)	132 (2.0%)	+88.3%	194 (2.8%)
全社消去	売上高	-905	-831	-	-931
	営業利益	-895	-811	-	-849
連結合計	売上高	34,000	31,602	+7.6%	35,933
	営業利益 (%)	1,585 (4.7%)	1,105 (3.5%)	+43.4%	1,744 (4.9%)

※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

事業別の損益は、全ビジネスユニットで対前年増収増益となります。

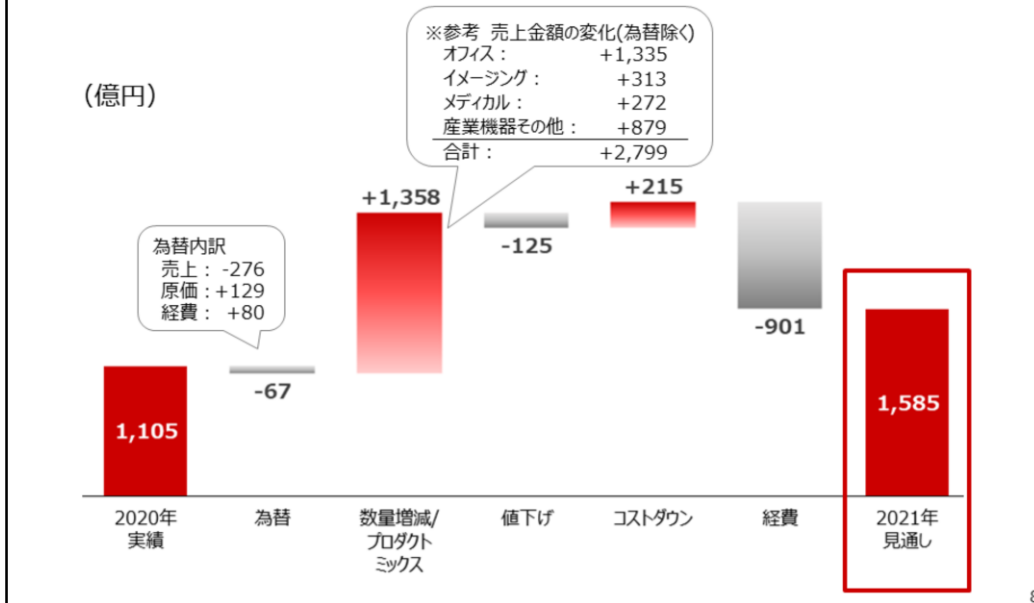
オフィスは、新製品効果と出勤者の増加により売上が回復することに加えて、これまでの構造改革の成果もあり、前年と比べて利益率が改善する見通しです。

イメージングは、カメラ、インクジェットともに増収となり、プロダクトミックスの改善や事業構造の見直しも進むことで、昨年に引き続き2桁の利益率を目指します。

メディカルと産業機器その他は、昨年新型コロナウイルス影響で減収となりましたが、今後も需要の拡大が見込まれる事業であり、今年は成長基調に回復させて2019年を上回る売上を目指していきます。

2021年 営業利益分析(年間)

■ 売上は回復、経費の増加を抑えて1,585億円を目指す



今年は増収に伴い、数量増減影響が昨年から好転し、併せて値下げの抑制とコストダウン活動に努めて利益を改善させていきます。また、新規事業成長のための開発投資や販売投資は強化していきますが、コロナ禍で確立した事業の効率的な運営は継続することで、経費の増加を901億円に抑え、1,585億円の営業利益を目指します。

- 市場は本体・プリントボリュームともに緩やかな回復傾向
- 2021年は価格競争力を高めた新製品によりシェア拡大

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
複合機	5,100	6,456	-21.0%	5,130	-30	5,820	5,100	+14.1%
LP	5,049	6,283	-19.6%	4,968	+81	5,281	5,049	+4.6%
その他	4,253	4,782	-11.1%	4,212	+41	4,419	4,253	+3.9%
売上高計	14,402	17,521	-17.8%	14,310	+92	15,520	14,402	+7.8%
営業利益	814	1,650	-50.7%	729	+85	1,189	814	+46.1%
%	5.6%	9.4%		5.1%		7.7%	5.6%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も適宜して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
複合機	-14.9%	-20.4%	+15.2%
LP	-7.2%	-18.9%	+5.3%
その他	-6.9%	-10.5%	+4.8%
合計	-10.0%	-17.1%	+8.7%

■ 台数伸び率

	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
複合機		
モノクロ	-18%	+13%
カラー	-15%	+21%
合計	-16%	+18%



『imageRUNNER ADVANCE DX』シリーズ_g

2020年は新型コロナウイルスの影響により多くのオフィスが閉鎖されたため、複合機やレーザープリンターなどのオフィス機器市場は大きく落ち込みました。2021年はリモートワークの定着などによりコロナ禍前の水準までは戻らないとみているものの、2020年からは回復が進む見通しです。

当社の複合機本体は、北米やインドなど回復の遅い地域もありましたが、2020年の売上は月を追って着実に改善し、第4四半期には対前年で9割程度に達し、2021年中にはコロナ禍前の水準まで回復する見通しです。プリントボリュームについては、北米に加え、新型コロナウイルス再拡大の影響が出ている欧州などでオフィス出勤者の戻りが鈍く、回復のペースは本体よりも遅いものの、2021年の第4四半期にはコロナ禍前の水準の9割程度まで戻ると見込んでいます。

今後市場の成長が望めない中で、当社は製品プラットフォームの共通化を通じて開発効率を上げるとともに、生産コストを削減します。今年発売する新製品から、市場で高く評価されている耐久性や故障の少なさなどの品質の優位性に、価格競争力が加わることで、シェアを伸ばし、売上を拡大していきます。

- 2020年はオフィス向け中高速機が減少し、減収
- 2021年は消耗品の安定的販売と固定費適正化により収益性改善

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見直し	対前回	2021年 見直し	2020年 実績	対前年
複合機	5,100	6,456	-21.0%	5,130	-30	5,820	5,100	+14.1%
LP	5,049	6,283	-19.6%	4,968	+81	5,281	5,049	+4.6%
その他	4,253	4,782	-11.1%	4,212	+41	4,419	4,253	+3.9%
売上高計	14,402	17,521	-17.8%	14,310	+92	15,520	14,402	+7.8%
営業利益	814	1,650	-50.7%	729	+85	1,189	814	+46.1%
%	5.6%	9.4%		5.1%		7.7%	5.6%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も選及して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見直し
複合機	-14.9%	-20.4%	+15.2%
LP	-7.2%	-18.9%	+5.3%
その他	-6.9%	-10.5%	+4.8%
合計	-10.0%	-17.1%	+8.7%

■ 台数伸び率

	2020年 年間実績	2021年 年間見直し
LP		
モノクロ	-17%	+0%
カラー	-15%	+16%
合計	-16%	+3%

10

当社の2020年は、在宅需要拡大の恩恵を低速機で一部受けたものの、オフィス向けの中高速機の本体や消耗品の販売が大きく減り、減収となりました。しかしながら、オフィス出勤者の増加に伴い、当社の第4四半期の売上は着実に上向いており、2021年も同様に回復が続く見通しです。

市況の回復が見込まれることに加えて、当社は収益性をより一層重視した戦略のもと、業績の改善を図ります。具体的には、安定的に消耗品を販売するため、プリントボリュームが期待できるオフィス向けの中高速機の販売を強化していきます。また、主に中小企業や個人に対して製品保証や価格面で優遇する代わりに消耗品を継続的に使用してもらう、OEM先のビジネスモデルをサポートします。販売面だけでなく、コスト面においても数量減の影響を最小限に留めるために部品の共通化、生産装置の集約など固定費の適正化をこれまで以上に進め、収益性を向上させていきます。

■ 2021年は製品ラインアップの拡充と販売網の拡大により増収を目指す

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
複合機	5,100	6,456	-21.0%	5,130	-30	5,820	5,100	+14.1%
LP	5,049	6,283	-19.6%	4,968	+81	5,281	5,049	+4.6%
その他	4,253	4,782	-11.1%	4,212	+41	4,419	4,253	+3.9%
売上高計	14,402	17,521	-17.8%	14,310	+92	15,520	14,402	+7.8%
営業利益	814	1,650	-50.7%	729	+85	1,189	814	+46.1%
%	5.6%	9.4%		5.1%		7.7%	5.6%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も選別して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
複合機	-14.9%	-20.4%	+15.2%
LP	-7.2%	-18.9%	+5.3%
その他	-6.9%	-10.5%	+4.8%
合計	-10.0%	-17.1%	+8.7%



高速カットシートインクジェットプリンター
『varioPRINT iX series』



大判プリンター
『Colorado 1650』

2020年の市場は、ポスター印刷などグラフィックアーツ向け製品を中心に新型コロナウイルスの影響を受け、当社の売上も減収になりました。

2021年中に市場がコロナ前の水準まで戻るとは難しいものの、オフセットからデジタル印刷へのシフトは続き、回復は着実に進むとみています。

当社は、特に成長が見込まれるグラフィックアーツにおいて、高速カットシートインクジェットプリンター「varioPRINT iXシリーズ」や、大判プリンター「Colorado」の新製品を昨年発売し、市場から強い支持を得ています。市場の回復が見込まれる今年、これらの製品が売上を牽引するとともに、さらなる製品のラインアップ強化も行い、拡販を図っていきます。加えて、大判プリンターについては、すでに取り引実績のあるディーラーに、グラフィックアーツの経験が豊富で多くの顧客を持つ新規のディーラーを加えて販売網を拡充し、シェア拡大を後押ししていきます。

イメージングシステム（カメラ）

Canon

- 2020年は「EOS R5」「EOS R6」を発売し、下期からは収益性改善
- 2021年の市場は対前年3%減に留まる
- EOS Rシステムをさらに強化。プロダクトミックス向上と増収を目指す

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
カメラ	3,477	4,668	-25.5%	3,301	+176	3,642	3,477	+4.8%
インクジェット	3,198	2,881	+11.0%	3,150	+48	3,232	3,198	+1.1%
その他	447	525	-14.6%	440	+7	451	447	+0.7%
売上高計	7,122	8,074	-11.8%	6,891	+231	7,325	7,122	+2.8%
営業利益	718	482	+49.1%	510	+208	746	718	+3.9%
%	10.1%	6.0%		7.4%		10.2%	10.1%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
カメラ	-6.0%	-24.8%	+5.7%
インクジェット	+5.6%	+12.1%	+2.1%
合計	-1.5%	-10.9%	+3.8%

■ 台数伸び率(単位：万台)

	2020年間実績		2021年間見通し	
	台数	伸び率	台数	伸び率
レンズ交換式	276	-34%	280	+1%



『EOS Rシステム』
カメラ本体とRFレンズ

12

2020年の市場は、新型コロナウイルスによる「巣ごもり」が新たな需要を生んだことや、各社が発売した新製品がカメラへの購買意欲を喚起したことで、前回見通しを10万台上回る600万台となりました。当社も10月時点の計画を上回る売上を達成し、収益性についても、第3四半期に発売した「EOS R5」と「EOS R6」が牽引役となり、下期には大きく改善しました。

今後の市場は、エントリー層を中心に中期的には縮小が続くものの、2021年に関しては、前年がコロナ影響で大きく落ち込んだため、対前年3%減の580万台に留まると見込んでいます。

当社は、引き続きEOS Rシステムのカメラ本体及びRFレンズのさらなる製品の強化を図り、需要が底堅いプロハイアマモデルのシェア向上を目指します。特にRFレンズは、これまでに18本と製品数を着実に増やしてきており、拡充したカメラ本体との相乗効果で昨年の下期からは販売が大きく伸びています。今年は多様な撮影ニーズに応えるべく、レンズのラインアップを一層強化し、本体の販売と合わせてプロダクトミックスを向上させ、対前年増収を目指します。

イメージングシステム（インクジェット）

Canon

- 2020年は在宅勤務・在宅学習の拡大を捉え、増収
- 2021年の市場は、先進国中心に在宅需要は継続、新興国は成長
- 大容量インクモデルの製品力を高めラインアップ強化。2年連続増収へ

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見直し	対前回	2021年 見直し	2020年 実績	対前年
カメラ	3,477	4,668	-25.5%	3,301	+176	3,642	3,477	+4.8%
インクジェット	3,198	2,881	+11.0%	3,150	+48	3,232	3,198	+1.1%
その他	447	525	-14.6%	440	+7	451	447	+0.7%
売上高計	7,122	8,074	-11.8%	6,891	+231	7,325	7,122	+2.8%
営業利益	718	482	+49.1%	510	+208	746	718	+3.9%
%	10.1%	6.0%		7.4%		10.2%	10.1%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見直し
カメラ	-6.0%	-24.8%	+5.7%
インクジェット	+5.6%	+12.1%	+2.1%
合計	-1.5%	-10.9%	+3.8%

■ 台数伸び率

	2020年 年間実績	2021年 年間見直し
インクジェット	+6%	+3%



大容量インクモデル
『G3360』

13

2020年は、欧米や中国をはじめとした在宅勤務や在宅学習の拡がりに牽引され、市場は前年から拡大し、当社についても、本体・消耗品ともに販売が伸びたことで、対前年増収となりました。

2021年については、市場は、先進国を中心に在宅需要が継続し、さらに新興国での大容量インクモデルの成長により、堅調に推移する見通しです。こうした中、当社はカートリッジモデルから大容量インクモデルまでバランスよくラインアップを持つ強みを活かし、先進国と新興国において、ホームからオフィスまでのそれぞれの印刷需要を捉えていきます。

特に大容量インクモデルは製品力のさらなる強化に取り組んでおり、昨年の第4四半期に発売した新製品は、印刷スピードの向上やランニングコストの低減、さらには主な消耗パーツをユーザー交換式としたことで、メンテナンス性の改善を実現しました。こうしたユーザーの利便性を高めた製品の展開でラインアップを強化し、販売台数を伸ばしていくことで、2年連続の増収を目指します。

- 2020年はコロナ禍の中でも為替の影響を除き増収増益
- 2021年は中高級機の拡販と販売力強化で5.5%の増収を目指す

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
売上高計	4,361	4,385	-0.6%	4,320	+41	4,600	4,361	+5.5%
営業利益	252	267	-5.6%	223	+29	296	252	+17.3%
%	5.8%	6.1%		5.2%		6.4%	5.8%	

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
合計	+12.9%	+0.9%	+6.2%



MRI
『Vantage Gracian』

14

2020年は各国で医療機関がコロナ対応に追われて経営環境が悪化し、画像診断装置の市場は、肺炎検査向けの一部を除き新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。そのような中でも当社は、各国政府による補助金や税の優遇を通じた医療機関への機器購入支援の機会を捉え、第4四半期の売上を11.6%伸ばし、年間では為替影響を除けばわずかながら増収増益となりました。

2021年については、足元では感染の再拡大により、画像診断装置の商談はやや停滞している状態にありますが、CTやMRIなどの中高級機を中心に製品力をさらに強化し、中規模・大規模の医療機関に対し拡販を図っていきます。

加えて販売力の強化についても、国内では昨年キヤノンメディカルシステムズ社の下に統合した販売組織のもとで販売効率を高めて、医療機関のカバレッジを拡大し、新興国では現地企業との提携などをさらに推し進めることで、5.5%の増収を目指していきます。

収益性については、2020年はコロナ禍により低価格帯の装置の売上構成比率が増加したため営業利益率は0.3ポイント低下しましたが、2021年は売上増加に加え、コロナ禍で培った経費の効率的運用を継続し、さらに原価低減活動を推進することで、6.4%まで高める計画です。

- 半導体露光装置は市場が堅調に推移し、販売台数は伸長
- FPD露光装置の需要は旺盛で、2021年は68台の販売を目指す

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
露光装置	1,425	1,572	-9.3%	1,436	-11	1,929	1,425	+35.3%
その他	5,123	5,312	-3.6%	5,297	-174	5,531	5,123	+8.0%
売上高計	6,548	6,884	-4.9%	6,733	-185	7,460	6,548	+13.9%
営業利益	132	194	-31.8%	66	+66	249	132	+88.3%
%	2.0%	2.8%		1.0%		3.3%	2.0%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も遡及して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
	露光装置	+49.7%	-9.6%
その他	+10.3%	-3.0%	+8.8%
合計	+19.1%	-4.5%	+14.6%

■ 露光装置台数 (単位：台)

	2019年 実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
	半導体	84	122
FPD	50	32	68



FPD露光装置
『MPAsp-E903T』

15

半導体露光装置は、データセンターやパソコンなど、メモリ向け投資の回復を背景に、2020年の当社の販売台数は122台と対前年で大きく増加しました。

2021年も、5Gの普及や、自動運転、スマートフォンの多眼化の進展によって、メモリやパワーデバイス、イメージセンサーなど、半導体デバイス需要は引き続き増加するとみています。

多様化する半導体デバイス需要に対し、顧客に合わせて装置をカスタマイズできる当社の強みを活かし、2021年の販売台数は、前年を上回る134台となる見込みです。

フラットパネルディスプレイ露光装置は、新型コロナウイルス影響により設置作業が遅れ、当社の2020年年間の販売台数は32台に留まりました。しかしながら、下期の渡航制限解除後は、設置再開を急ぎ、第4四半期には前年比2倍以上となる21台の販売を達成しました。

2021年についても、引き続きパネルメーカーの投資意欲は旺盛であり、日本からの渡航の体制を整えるとともに、設置要員の現地化も進め、前年を大きく上回る68台の販売を目指します。

- 2021年の有機EL蒸着装置は、高精細技術を高め、高シェアを維持
- 成長軌道に戻るネットワークカメラは、2021年は2桁成長を目指す

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
露光装置	1,425	1,572	-9.3%	1,436	-11	1,929	1,425	+35.3%
その他	5,123	5,312	-3.6%	5,297	-174	5,531	5,123	+8.0%
売上高計	6,548	6,884	-4.9%	6,733	-185	7,460	6,548	+13.9%
営業利益	132	194	-31.8%	66	+66	249	132	+88.3%
%	2.0%	2.8%		1.0%		3.3%	2.0%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も遡及して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
露光装置	+49.7%	-9.6%	+35.5%
その他	+10.3%	-3.0%	+8.8%
合計	+19.1%	-4.5%	+14.6%



有機EL蒸着装置



ネットワークカメラ
『P1455-LE』

16-1

有機EL蒸着装置では、2020年は、渡航制限により顧客先での設置作業が一時中断したものの、再開後は、渡航日程や要員の調整をきめ細かく行い、設置を進めたことで、増収を達成しました。

2021年については、5Gの普及によるスマートフォンの買い替え需要が進む中、有機ELを搭載したモデル数が増加しており、有機ELパネル市場は着実に成長していくと見込んでいます。

当社は、有機EL蒸着装置における圧倒的なシェアを維持していくために、高精細技術をさらに高めるとともに、大型パネル向け装置の開発を進めています。また、移動の制限が再び強化された場合に備え、設置要員のスキル向上や、設置作業の工数低減などにも注力していきます。

- 2021年の有機EL蒸着装置は、高精細技術を高め、高シェアを維持
- 成長軌道に戻るネットワークカメラは、2021年は2桁成長を目指す

(億円)

	年間					年間		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年	2020年 前回見通し	対前回	2021年 見通し	2020年 実績	対前年
露光装置	1,425	1,572	-9.3%	1,436	-11	1,929	1,425	+35.3%
その他	5,123	5,312	-3.6%	5,297	-174	5,531	5,123	+8.0%
売上高計	6,548	6,884	-4.9%	6,733	-185	7,460	6,548	+13.9%
営業利益	132	194	-31.8%	66	+66	249	132	+88.3%
%	2.0%	2.8%		1.0%		3.3%	2.0%	

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も遡及して組替えています。

■ 対前年売上伸び率(現地通貨)

	2020年 4Q実績	2020年 年間実績	2021年 年間見通し
露光装置	+49.7%	-9.6%	+35.5%
その他	+10.3%	-3.0%	+8.8%
合計	+19.1%	-4.5%	+14.6%



有機EL蒸着装置



ネットワークカメラ
『P1455-LE』

16-2

ネットワークカメラの2020年の市場は、各国経済の減速を受け第2四半期では落ち込んだものの、人々の安心安全へのニーズは普遍的であることから回復も早く、年後半からは成長軌道に戻りました。こうした中、当社も第3四半期以降は増収に戻り、年間でも対前年増収となりました。

2021年の市場は、従来の監視目的に加え、新型コロナウイルス対策として密集や接触を回避する目的の需要も拡大し、2桁成長に回帰する見通しです。

当社の強みは、感度や画質に優れた高品質な製品を数多くそろえることや、世界各地に多くの販売パートナーを持つことであり、市場の成長を着実に捉えることが可能です。さらには、キヤノングループが持つハードウェアとソフトウェアを組み合わせることでソリューションの幅を広げて、非対面・非接触ニーズにも応えることで、今年は2桁増収を目指します。

- 2020年はコロナ禍でも適正な在庫水準維持に注力
- 2021年も市況の変化に合わせ、きめ細やかな在庫を管理を徹底

(金額：億円)

		2019年				2020年			
		3月末	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
オフィス	金額	2,155	2,061	2,013	1,919	1,949	1,916	1,883	1,765
	日数	43	43	42	40	42	50	53	44
イメージングシステム	金額	1,562	1,516	1,569	1,279	1,301	1,133	1,079	1,000
	日数	62	73	73	55	61	70	60	44
メディカルシステム	金額	938	930	923	975	975	1,001	972	923
	日数	75	79	77	79	84	91	89	77
産業機器その他	金額	1,854	1,804	1,838	1,675	1,781	1,987	2,242	1,940
	日数	105	112	114	102	112	141	156	107
合計	金額	6,509	6,311	6,343	5,848	6,006	6,037	6,176	5,628
	日数	62	65	65	59	63	76	79	60

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィスに含めており、前年実績も遡及して組替えています。

17

昨年はコロナ禍でサプライチェーンの乱れや急激な需要の増減にみまわれる中で、一年を通じて適正な在庫水準の維持に注力してきました。売上が大きく減少する中で、在庫を前年末から220億円削減し、回転日数も前年並みの60日となりました。

直近の9月末からは、全ビジネスユニットで金額、回転日数ともに改善しておりますが、中でもイメージングシステムは、カメラやインクジェットプリンターの販売が計画以上に推移し、大幅に減少しました。

また産業機器については、コロナ禍で延期されていた設置作業を、第4四半期に計画通り進めて売上につなげたことで大きく削減しました。

2021年も市況の変化に合わせて、きめ細やかな在庫管理を行い、適正な在庫水準を維持していきます。

キャッシュフロー(年間)

- 2020年は前年を上回る1,784億円のフリーキャッシュフローを確保
- 2021年もフリーキャッシュフローを改善し、財務体質の強化を進める

(億円)	2021年 見通し	2020年 実績	2019年 実績
営業活動によるキャッシュフロー	3,800	3,338	3,585
投資活動によるキャッシュフロー	-2,000	-1,554	-2,286
フリーキャッシュフロー	1,800	1,784	1,299
財務活動によるキャッシュフロー	-1,844	-1,834	-2,326
為替変動影響	-33	-1	-51
現預金の純増減額	-77	-51	-1,078
現預金の期末残高	4,000	4,077	4,128
手元回転月数(※)	1.3	1.4	1.4
設備投資	1,600	1,323	1,781
償却費	2,300	2,278	2,373

※ 2021年は年間売上高で算出。2020年および2019年は下期売上高で算出

18

2020年は、コロナ禍で厳しい経営環境の中、減益となったものの、運転資本の改善と償却費の範囲内での設備投資などにより、フリーキャッシュフローは2019年を上回る1,784億円となりました。

2021年は、利益の拡大を図るとともに、在庫など運転資本の効率化を通じて営業キャッシュフローを改善して、設備投資やM&Aといった将来への成長投資に資金を振り向けていきます。不測の事態に迅速に対応出来るよう、4,000億円の手元資金を確保しながら、株主還元と借入金の返済もバランス良く進めていきます。

なお、今年度の配当については、新型コロナウイルス感染収束の見通しが依然不透明であるため、今後、当社の業績状況を見極めながら判断していきます。

サステナビリティへの取り組み

Canon

2020年の環境・CSR活動の主な実績

■「製品1台当たりのライフサイクルCO₂：年平均3%改善」目標を継続達成



省エネルギー製品の開発や販売



再生可能エネルギーの活用



■ RBA*基準での自己点検を実施し、労働環境等、特段の問題がないことを確認

*サプライチェーンの社会的責任を推進する国際的CSRアライアンス



■ CDP Aリストに選定



当社は環境目標として、「製品1台当たり ライフサイクルCO₂の年平均3%改善」を2008年に定めており、これまでも継続的に活動を行ってきました。2020年は、省エネ製品の開発や販売、欧州をはじめとする再生可能エネルギーの活用、生産拠点での効率化などで対前年およそ2.5%の改善となり、累積では年平均4.5%と目標を達成することができました。今後も世界が目指すCO₂ネットゼロに向けて取り組みを進めていきます。

昨年末には、国際的な環境の非営利団体であるCDPより、気候変動と水セキュリティの分野で最高評価となる「Aリスト」に選定されました。

CO₂の削減に加え、世界的な気候関連情報を扱うTCFDの開示要請への対応、また、生産拠点における水のクローズドリサイクルなど、気候変動と水に関わる取り組みが高く評価されたもので、今回の選定を励みに、引き続き環境負荷低減活動と適切な情報開示に取り組んでいきます。

また、国際的なアライアンスであるRBAに2019年12月に加盟し、昨年は主要な自社工場とサプライヤーに対して、人権の遵守をはじめとした国際基準での自己点検を実施し、RBAが求める水準でも特段の問題がないことを改めて確認しました。

これからも、企業の社会的責任を果たす活動を積極的に推し進め、また関連するESG情報の開示を拡充し、ステークホルダーの皆様とともに持続可能な社会の実現を追求していきます。

サステナビリティへの取り組み

2020年の環境・CSR活動の主な実績

■「製品 1 台当たりのライフサイクルCO₂ : 年平均 3%改善」目標を継続達成



省エネルギー製品の開発や販売



再生可能エネルギーの活用



■ RBA*基準での自己点検を実施し、労働環境等、特段の問題がないことを確認

*サプライチェーンの社会的責任を推進する国際的CSRアライアンス



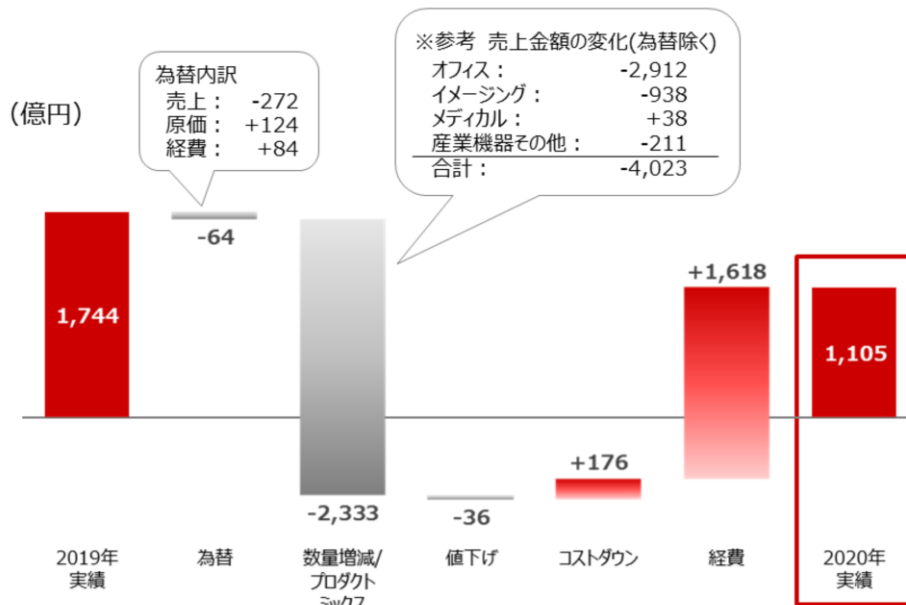
■ CDP Aリストに選定



2020年は新型コロナウイルスに大きく振り回された1年でしたが、全社を挙げてこの難局に立ち向かった結果、業績は着実に上向いてきています。2021年より、新たな5カ年計画「グローバル優良企業グループ構想Phase VI」をスタートさせます。これまで当社が取り組んできた事業ポートフォリオの転換を一層推し進め、現行事業の収益体質強化と新規事業の拡大を図ることで、高収益企業への回帰を目指していきます。

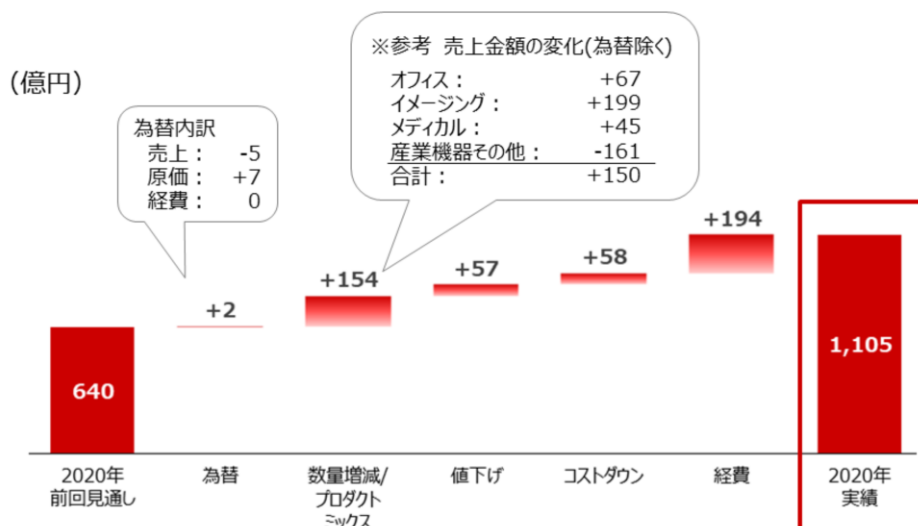
參考資料

営業利益分析(2020年年間)対前年

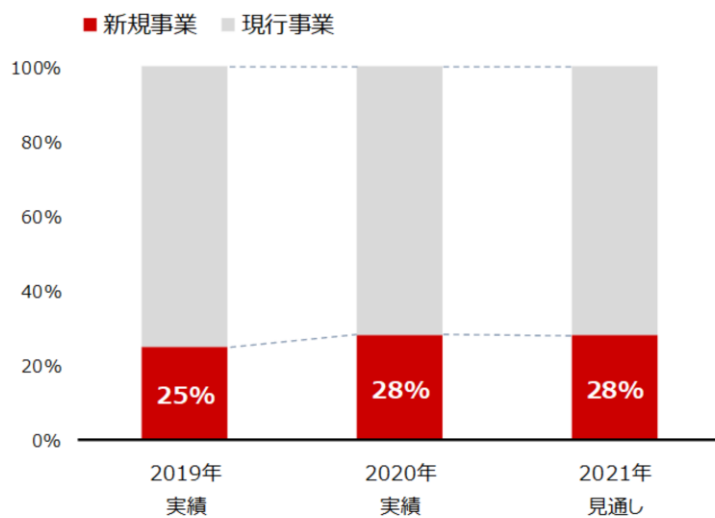


※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

営業利益分析(2020年年間)対前回



新規事業売上構成比の推移



■ハード/ノンハード別 対前年売上伸び率

		2021年	2020年		2019年	
		年間 見通し	4Q 実績	年間 実績	4Q 実績	年間 実績
複合機						
円貨	ハード	+21%	-11%	-22%	-10%	-7%
	ノンハード	+9%	-18%	-20%	-5%	-5%
LC	ハード	+22%	-11%	-21%	-6%	-4%
	ノンハード	+10%	-18%	-20%	-2%	-2%
LP						
円貨	ハード	+3%	-15%	-21%	-13%	-5%
	ノンハード	+5%	-6%	-19%	-11%	-15%
LC	ハード	+4%	-14%	-20%	-11%	-3%
	ノンハード	+6%	-3%	-18%	-9%	-13%
インクジェット						
円貨	ハード	+3%	+16%	+20%	-10%	-9%
	ノンハード	0%	+1%	+7%	-13%	-10%
LC	ハード	+4%	+16%	+21%	-7%	-7%
	ノンハード	+1%	0%	+8%	-9%	-8%

■カラー比率

		2021年	2020年		2019年	
		年間 見通し	4Q 実績	年間 実績	4Q 実績	年間 実績
複合機	売上高	61%	61%	60%	60%	59%
	台数	61%	60%	59%	58%	59%
LP	売上高	52%	51%	51%	51%	52%
	台数	23%	21%	21%	21%	20%

■複合機 モノクロ/カラー別 対前年売上伸び率

		2021年	2020年		2019年	
		年間 見通し	4Q 実績	年間 実績	4Q 実績	年間 実績
円貨	モノクロ	+10%	-16%	-22%	-8%	-6%
	カラー	+17%	-14%	-20%	-7%	-5%
LC	モノクロ	+11%	-16%	-21%	-4%	-4%
	カラー	+18%	-14%	-20%	-3%	-2%

■ レンズ交換式カメラ比率 / コンパクトカメラ台数

	2021年	2020年		2019年	
	年間 見通し	4Q 実績	年間 実績	4Q 実績	年間 実績
レンズ交換式カメラ比率					
金額ベース ※	87%	88%	87%	86%	85%
台数ベース	69%	69%	65%	64%	62%
コンパクトカメラ台数 (万台)	125	46	148	71	257

※交換レンズも含む

■ 半導体露光装置台数 光源別内訳

(単位：台)

	2021年	2020年		2019年	
	年間 見通し	4Q 実績	年間 実績	4Q 実績	年間 実績
KrF	31	10	25	8	22
i線	103	29	97	19	62
合計	134	39	122	27	84

■ 事業別 対前年売上伸び率 (円貨)

		2020年実績				
		1Q	2Q	3Q	4Q	年間
	ハード	-18.4%	-40.3%	-17.7%	-11.0%	-22.0%
	ノンハード	-1.9%	-39.9%	-20.7%	-18.0%	-20.2%
複合機		-9.1%	-40.1%	-19.3%	-14.8%	-21.0%
	ハード	-21.1%	-30.8%	-16.0%	-14.9%	-20.8%
	ノンハード	-7.2%	-26.1%	-38.0%	-5.8%	-18.8%
LP		-12.8%	-28.1%	-28.9%	-9.2%	-19.6%
その他		-5.3%	-19.3%	-12.8%	-6.9%	-11.1%
オフィス		-9.4%	-30.2%	-21.0%	-10.7%	-17.8%
カメラ		-27.0%	-54.5%	-16.0%	-6.1%	-25.5%
	ハード	+7.3%	+14.2%	+39.7%	+16.1%	+19.6%
	ノンハード	+3.6%	+13.8%	+12.3%	+0.6%	+7.2%
インクジェット		+4.6%	+13.9%	+20.9%	+5.6%	+11.0%
その他		-9.2%	-41.6%	-5.7%	-0.7%	-14.6%
イメージングシステム		-13.9%	-30.8%	-2.0%	-1.6%	-11.8%
メディカルシステム		-3.0%	-3.1%	-7.5%	+11.6%	-0.6%
露光装置		-46.3%	-38.1%	+1.6%	+50.1%	-9.3%
その他		+1.7%	-17.1%	-9.0%	+9.7%	-3.6%
産業機器その他		-9.8%	-22.4%	-6.9%	+18.7%	-4.9%
合計		-9.5%	-25.7%	-12.7%	-0.8%	-12.1%

2020年 4Q

全社PL (2020年4Q)

(億円)	2020年 4Q実績	2019年 4Q実績	対前年
売上高	9,457	9,535	-0.8%
売上総利益 (売上総利益率)	4,143 43.8%	4,234 44.4%	-2.1%
経費 (経費率)	3,381 35.7%	3,710 38.9%	
営業利益 (営業利益率)	762 8.1%	524 5.5%	+45.4%
税引前利益	802	513	+56.4%
純利益 (純利益率)	536 5.7%	326 3.4%	+64.3%
USD	104.50	108.75	
EURO	124.53	120.35	

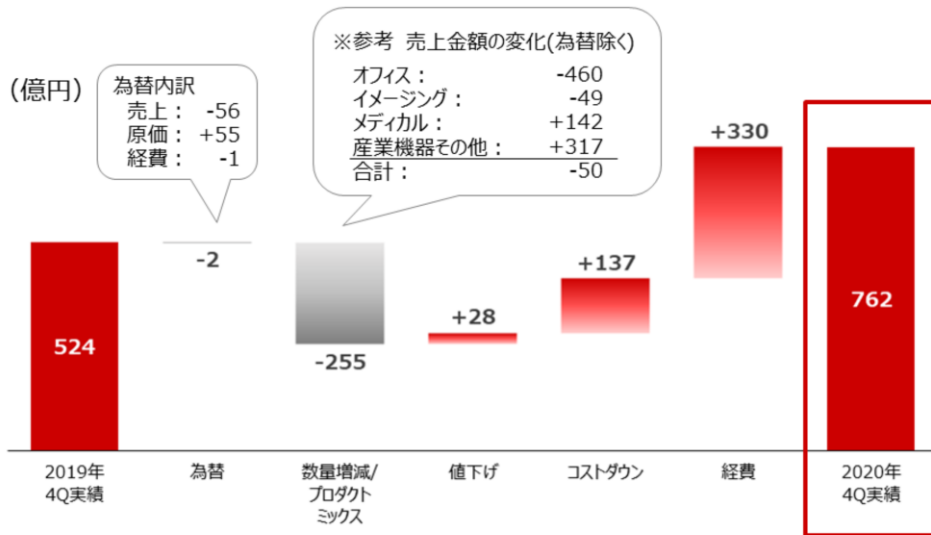
※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

ビジネスユニット別PL (2020年4Q)

(億円)		2020年 4Q実績	2019年 4Q実績	対前年
オフィス	売上高	3,992	4,470	-10.7%
	営業利益 (%)	339 (8.5%)	398 (8.9%)	-15.0%
イメージング システム	売上高	2,334	2,372	-1.6%
	営業利益 (%)	432 (18.5%)	207 (8.7%)	+108.7%
メディカル システム	売上高	1,228	1,100	+11.6%
	営業利益 (%)	103 (8.4%)	76 (6.9%)	+35.0%
産業機器 その他	売上高	2,151	1,812	+18.7%
	営業利益 (%)	77 (3.6%)	13 (0.7%)	+470.0%
全社消去	売上高	-248	-219	-
	営業利益	-189	-170	-
連結合計	売上高	9,457	9,535	-0.8%
	営業利益 (%)	762 (8.1%)	524 (5.5%)	+45.4%

※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

営業利益分析(2020年4Q)対前年



※有給休暇の引当金について過年度の財務諸表を修正しておりますが、影響は軽微です。

オフィス/イメージングシステム(2020年4Q) Canon

オフィス

(億円)

	4Q		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年
複合機	1,429	1,678	-14.8%
LP	1,417	1,562	-9.2%
その他	1,146	1,230	-6.9%
売上高計	3,992	4,470	-10.7%
営業利益	339	398	-15.0%
%	8.5%	8.9%	

■対前年売上伸び率 (現地通貨)

	2020年 4Q実績
複合機	-14.9%
LP	-7.2%
その他	-6.9%
合計	-10.0%

■台数伸び率

	2020年 4Q実績		LP	2020年 4Q実績
	複合機	モノクロ		
複合機	-11%	モノクロ		-5%
LP	-3%	カラー		-3%
合計	-6%	合計		-5%

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も遡及して組替えています。

イメージングシステム

(億円)

	4Q		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年
カメラ	1,293	1,378	-6.1%
インクジェット	904	856	+5.6%
その他	137	138	-0.7%
売上高計	2,334	2,372	-1.6%
営業利益	432	207	+108.7%
%	18.5%	8.7%	

■対前年売上伸び率 (現地通貨)

	2020年 4Q実績
カメラ	-6.0%
インクジェット	+5.6%
合計	-1.5%

■台数伸び率 (台数単位:万台)

	2020年4Q実績		2020年 4Q実績	
	台数	伸び率		
レンズ交換式	101	-20%	インクジェット	0%

メディカルシステム

(億円)

	4Q		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年
売上高計	1,228	1,100	+11.6%
営業利益	103	76	+35.0%
%	8.4%	6.9%	

■ 対前年売上伸び率
(現地通貨)

	2020年 4Q実績
合計	+12.9%

産業機器その他

(億円)

	4Q		
	2020年 実績	2019年 実績	対前年
露光装置	606	404	+50.1%
その他	1,545	1,408	+9.7%
売上高計	2,151	1,812	+18.7%
営業利益	77	13	+470.0%
%	3.6%	0.7%	

■ 対前年売上伸び率
(現地通貨)

	2020年 4Q実績
露光装置	+49.7%
その他	+10.3%
合計	+19.1%

■ 露光装置台数(単位:台)

	2020年 4Q実績	2019年 4Q実績
露光装置	39	27
その他	21	10
合計		

※従来、産業機器その他に含めて開示していた一部のビジネスを、オフィス「その他」に含めており、2019年実績も遡及して組替えています。